

初日

2022.9.8

2学期の初日は、8月22日（月）だった。32日間の夏休みが終了し、2学期がスタートする日である。出勤時間を夏休み前に戻した。初日ということもあり、学校に行ったら、これをやって、次はあれをやってと一日のスケジュールを考えておいた。

ところが、そんな私のプランは瞬く間に崩壊した。朝から報告やら対応が必要な案件やらが続いた。これが学校かと思ひ知らされた。まるで、立ち上がりのわるいパソコンのように、頭と体がついていかない。

それでも、一つ一つ対応していくうちに、感覚が戻っていく。やはり、体は覚えているものである。お陰で一気に目が覚めた気がした。スイッチが入った。学校には、徐々に徐々に慣らしていくという余裕はないようである。スタートしたら全力疾走あるのみである。

こうしてみると、初日というのはこわい。何かミスをしそうである。初日に向けて準備はしておく。しかし、いざ始まると、時間の速さが、それまでとはまるで違う。すべてが目まぐるしく動いていく。

8月22日（月）、態勢を整えることができたのは、お昼前だった。ちょうど一息ついたところで検食となった。約1か月ぶりの給食である。おいしい。献立も生徒に人気があるカレーだった。冷凍パイナップルまでついている。初日の給食としては申し分ない。

お昼前までの自分には、少なからずショックを受けた。もう少し、スムーズにいくと思っていた。傍から見ると、何でもないように見えると思う。だが、本人の中ではスムーズにはっていない。スイッチは入っているのだが、ギアが上がらないというか加速していかないのである。

やはり、生活リズムは大切である。一度崩れたリズムは、そう簡単には元に戻らない。気持ちとしては、全力疾走のつもりでも、体がついてこない。頭もそうである。思考が追いつかない。要するに調子が出ない。

夏休み明けの初日など、何度も経験しているはずなのに、この体たらくである。情けない。ここで、考えた。いくつもあるルーティンをこなさないと、調子が出ないのではないのか。思えば、学校にいる間は、数々のルーティンを行うことで仕事が進んでいる。

スポーツでも仕事でもルーティンは重要である。当たり前に行っていたことを当たり前に行えるようになってはじめて、本来の力を発揮することができるのかもしれない。2学期の初日から、そんなことを考えさせられた。初日には、最初の日という以上に、大きな意味合いがある。